

報告

2010年度徳島大学全学FD推進プログラムの実施報告

日置善郎 宮田政徳 川野卓二 香川順子 田中さやか 吉田 博 奈良理恵
徳島大学大学開放実践センター

(キーワード: 初任者研修, FDファシリテーター養成研修, 授業コンサルテーション, 教育カンファレンス)

An annual report 2010 on campus wide Faculty Development programs at The University of Tokushima

Zenro HIOKI Masanori MIYATA Takuji KAWANO Junko KAGAWA Sayaka TANAKA
Hiroshi YOSHIDA Rie NARA
Center for University Extension, The University of Tokushima

(Keywords: New faculty seminars, FD Facilitator training seminars, Individual consultations, Education conference)

1. はじめに

本年度は、第3期全学FD推進プログラム(3ヵ年)の3年目(最終年)である。今年度も前年度に引き続いて、FDファシリテーター養成研修、教育力開発基礎プログラム、授業コンサルテーション・授業研究会、大学教育カンファレンスを実施した。また、去年まで実施していたFDラウンドテーブル、FDとくどくセミナーは「FD・SDセミナー」に改編統合して実施した。

各プログラムの役割は、「初任者研修」としての『教育力開発基礎プログラム及び授業コンサルテーション・授業研究会』、「学部FD実施者向け」の『FDファシリテーター養成研修』、「話題提供者を囲む懇談の場」としての『FD・SDセミナー』、「特色ある教育実践・研究発表の場」としての『大学教育カンファレンス』、という位置づけで明確にされ、これにより全体の体系性も高まった。

また、昨年度より、FDファシリテーター養成研修をSPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)に開放して徳島大学外からの参加者も受け入れており、同様に、教育力開発基礎プログラム、FD・SDセミナー、大学教育カンファレンスin徳島もSPOD開放プログラムとしている。

これらのプログラムは、アンケート結果及びワークショップ等の実施状況から見て、概ね所期の成果を上げたと言える。しかし、教育力開発基礎プログラム受講者に対する授業コンサルテーシ

ン・授業研究会の意義についての説明には不十分な面もあり、結果として対象者全員の授業コンサルテーション・授業研究会プログラム実施に至っていない点は反省材料である。

但し、この授業コンサルテーション・授業研究会については、昨年度からFD専門委員会と当該学部FD委員会との共催で実施することとしており、これにより、授業設計・実施の技術的な面のみならず、授業内容の面からも意見交換が出来る、より有効なプログラムになったことは評価してよいだろう。

FD実施組織の面では、平成20年度から全学部に学部FD委員会を設置し、FD専門委員会委員を、学部FD委員長またはそれに代わるものとしたが、昨年度は更にFD専門委員会に副委員長をおき、蔵本地区から選出することを決めた。これにより常三島と蔵本地区の連携が密になり、FD推進体制がより一層全学的なものとなった。

このように、組織、システム及びプログラムを継続的に整備することが、徳島大学全学FDの更なる発展にとって極めて重要と考えられる。

2. FDファシリテーター養成研修

a. ねらい

平成21年2月の大学教育委員会において「徳島大学FD推進プログラム第3期計画(2008/4-2011/3)」が決定され、これに基づき年

度ごとに「FD推進プログラム年度計画」を策定の上、FD活動を推進することとなっている。平成22年度は第3期計画の三年目にあたり、昨年度の成果と反省に基づき、その内容を改善した上で、平成22年度FD推進プログラムの一環として「FDファシリテーター養成研修」(合宿ワークショップ研修)を実施した。

このプログラムの目標は次のとおりである。

- ①FD活動の理念と活動計画を理解し、FDプログラムを開発する。
- ②FDリーダーとして活動できる能力と資質を体得する。
- ③FDリーダー間の仲間づくり、FDネットワークづくりをする。

全学FD推進プログラム第3期の三年目である今年、リーダーワークショップでは、到達目標及び内容について、昨年度から開始したプログラムを引き続き実施した。

対象者は、各学部からFD企画を立案・実施する立場の教員(FD専門委員会委員等)2名以上とした。その他、今年度からT-SPOD(徳島県下FDネットワーク)参加校及びSPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)の東部地区加盟校(香川県内)にも参加者を拡大した。プログラム内容は、FDニーズの把握から企画の立案及びプログラム評価の方法までを、レクチャーとワークショップを通じて体得し、FD企画の立案能力を向上させることを目標とし、プログラムはFD中四国ネットワークで開発したFDファシリテーター養成プログラムを引き続き使用した。これまで以上に、明確な目標を設定し、実践的内容をもったプログラムを実施した。

研修には、学内から歯学部の伊賀弘起先生、学外から香川大学の葛城浩一先生と阿南工業高等専門学校の松本高志先生を講師としてお迎えし、プログラムを実施した。

b. 概要

■開催期日

2010年6月19日(土)～6月20日(日)

■会場

独立行政法人「国立淡路青少年交流の家」
(兵庫県南あわじ市阿万塩屋 757-39)

■参加者

【学部FD委員等】

氏名	所属	職名
大橋 眞	総合科学部	教授
岸江信介	総合科学部	教授
奥村裕司	医学部	准教授
北岡和義	医学部	助教
桃田幸弘	歯学部	講師
堀内信也	歯学部	助教
田中秀治	薬学部	教授
山崎哲男	薬学部	教授
末包哲也	工学部	教授
西野克志	工学部	准教授
荒木秀夫	全学共通教育センター	教授
Steve T. Fukuda	全学共通教育センター	助教
三好徳和	全学共通教育センター	教授

【T-SPOD 及び SPOD 東四国】

氏名	所属	職名
宗野真和	徳島文理大学	准教授
小田真隆	徳島文理大学	講師
奥本良博	阿南工業高等専門学校	准教授
川畑成之	阿南工業高等専門学校	准教授
岩中貴裕	香川大学	准教授
佐藤慶太	香川大学	准教授

■学内外講師等

氏名	所属	職名
伊賀弘起	徳島大学	教授
葛城浩一	香川大学	准教授
松本高志	阿南工業高等専門学校	准教授

■運営メンバー

氏名	所属	職名
和田 眞		副学長
日置善郎	大学開放実践センター	センター長
前澤 博	医学部	教授
川野卓二	大学開放実践センター	教授
宮田政徳	大学開放実践センター	准教授
香川順子	大学開放実践センター	准教授
吉田 博	大学開放実践センター	特任助教
田中さやか	大学開放実践センター	特任助教
奈良理恵	大学開放実践センター	FDマネージャー
森川知香	学務部教育支援課	事務補佐員
出川隆富	学務部教育支援課	教育支援課長
藤本一幸	学務部教育支援課	生涯学習係長

■内容

2日間にわたって表1のプログラムを実施した。

c. 成果と課題

プログラム終了直後にとった、参加者へのアンケート結果を示す。以下に、各問いに対する自由記述の回答を挙げる。

(1)現在のあなたにレベルアップが必要なFDに関連があるスキル・知識は何ですか。

- ・ 同僚教員をいかにFDテーブルに着かせるか
- ・ ニーズの適切な把握からプログラム作成への展開
- ・ 新任教員研修で取り扱う内容についての教授スキル
- ・ 研修会等を企画するスキルやニーズを正確に把握するスキル
- ・ FD関係の知識と広め方
- ・ 企画力
- ・ 学生の意欲を引き出すことや関連性に興味を持たせること
- ・ 十分な講義準備時間 (そのための雑用の減少)
- ・ グループワーク (TBLなど)
- ・ 分かり易い講義の仕方、その方法など
- ・ メンタルな問題がある学生への対応
- ・ ファシリテーションスキル
- ・ インストラクションスキル
- ・ 学生の心を読むこと
- ・ 学生に自主的に学習に取り組ませる授業の方法、学生のメンタルヘルスケアの手法
- ・ ファシリテートのスキル
- ・ 黒板の使い方、プリントの使い方、カリスマ講師の講演

(2)会場について改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ 他の団体がいない場所の方がやり易い
- ・ 落ち着いた環境でやりたい (予算的な面で無理かも知れないが)
- ・ 会場は問題ないが、グループに分かれてのテーブル配置には不満だった。教壇に背を向けてた位置のため、作業と説明を聞くことを同時進行しにくかった。

- ・ グループ作業中のレクチャーが聴きづらいので、グループ作業の机の向きを縦にした方がよい
- ・ 談話室の充実と夜間のエアコンが欲しい

(3)研修内容について改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ FDの意義や本質について、もっと議論すべきかと思った
- ・ ワークの中に講義が入り込んでいて、思考が途切れた
- ・ 少しだけでいいので、レクレーションの時間があつた方がいいと思う
- ・ ワークを少し減らし、ディスカッションを増やす
- ・ 全学FDの企画について意見交換をする場を設ける。ワークを短くして、全体的な議論をする場を設けて日常的な問題を共有できるように改善してほしい。FDニーズに基づいて企画をするには無理があるように思う。
- ・ プログラム作成後の討論を多くして欲しい
- ・ もう少し、目的が分かり易い設定で行った方がよい
- ・ 前半は一方通行の講義ばかりで、初日の昼過ぎの講義は眠ってしまった。ワークの意図・説明が不明瞭、或いは現実から乖離している感じだった。ワークをきちっと step by step できっちり段階を踏んで進めるべきだったと思う。
- ・ レクチャーとワークがきちっと関連づけられていないように思う。あともう少しメリハリをつけてはどうでしょうか。
- ・ もう少し事前に校内のニーズについて把握するような機会を作る方がよい

(4)参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 問題点などを共有でき、解決のヒントを与えてもらった
- ・ FDへの理解が深まった
- ・ FDに真剣に取り組んでいる人が数多くいるということを知ることができた
- ・ 必要なFDプログラムを作成することができた

表1 2010年度FDファシリテーター養成研修日程

第1日(2010年6月19日・土曜日)

9:30 国立淡路青少年交流の家到着

時刻	内容	講師・担当者
9:30-10:00	・記念写真撮影、部屋の確認、会場設営	研修事務局
10:00-10:30	(1)オリエンテーション ・FDへの期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	副学長(教育担当) 和田 眞 FD専門委員会委員長 日置善郎 (進行) 川野卓二
10:30-11:00	(2)アイスブレイク	田中さやか
11:00-12:00	(3)講義①:高等教育をとりまく現状 (4)講義②:徳島大学全学FDプログラムの紹介	宮田政徳 香川順子
12:00-13:00	昼食(12:20~12:50) 休憩	
13:00-14:30	(5)講義③:徳島大学歯学部FDの紹介 (6)講義④:香川大学FDの紹介 (7)講義⑤:阿南高専FDの紹介	伊賀弘起 葛城浩一 松本高志
14:30-14:40	休憩	
14:40-17:20	(8)ワーク①:FDの課題の把握 (9)ワーク②:FDプログラムの企画・立案	川野卓二 伊賀弘起、葛城浩一、 松本高志 他スタッフ全員
17:20-18:30	夕食(17:30~18:00) 休憩	
18:30-19:30	自由時間	
19:30-20:30	(10)FD交流会	吉田博
20:30-22:30	風呂他(入浴時間21:30~22:00)	

22:30 就寝及び消灯

第2日(2010年6月20日・日曜日)

時刻	内容	講師・担当者
7:00-7:20	朝のつどい	
7:20-8:30	朝食(7:20~7:45) 掃除(点検・退室)	
8:30-9:30	(11)ワーク③:FDプログラム評価シート作成	川野卓二
9:30-9:40	休憩	
9:40-11:40	(12)ワーク④:FDプログラム作成と情報共有	伊賀弘起、葛城浩一、 松本高志 他スタッフ全員
11:40-12:50	昼食(11:50~12:20) 休憩	
12:50-14:00	(13)ワーク⑤:FDプログラム発表・質疑応答	FD専門委員会副委員長 前澤 博
14:00-14:10	休憩	
14:10-14:40	(14)プログラムのまとめ ・講評 ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	副学長(教育担当) 和田 眞 FD専門委員会委員長 日置善郎 (進行) 宮田政徳

14:50 バス発車 - 15:40 常三島キャンパス着

- ・ 全て良かったですが、どこまで各部局が持ち帰れるかが心配
- ・ 参加者と情報交換できた点
- ・ いろいろな面でヒントを得ることができた (FD以外でも)
- ・ 人と話すことで、意思の疎通ができたこと
- ・ FDの研修内容はあまり役立たないことだったと思うが、その過程で他大学、他学部の先生との交流やさまざまな問題を共有できたことは貴重であった
- ・ 他学部、他校と交流ができた点
- ・ 他学部の問題点が分かった
- ・ 教育のモチベーションの向上
- ・ アイスブレイクで心が開放された
- ・ 自らFDプログラムの立案に携わる経験ができた
- ・ 定期的な受講が必要であることが分かった
- ・ 多くの先生方と交流を深めることができた

(5) その他、研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ もっと多くの方が参加できるようにしたら良いと思う
- ・ プログラムの設計をもう少し改良してほしい
- ・ 他の団体がいない場所で行い、レクリエーションの時間も取ると良くなる
- ・ バーベキューしながら教育のディスカッションをするならもっと活発になる
- ・ 名前で参加意欲をなくすので、「研修」という名前を使うのをやめる
- ・ 全体的に討論時間を多めに取るべき
- ・ 部局間コミュニケーションを取るなら、そのような時間を設定すべきである
- ・ ありきたりな技法に走ってはいけないので、ワークの内容の見直しが必要
- ・ それぞれの学部からの参加者をもう一名づつくらい増やした方が良い
- ・ 自分にはファシリテーターでなく、一般のFDプログラムの方が適している
- ・ 他の専門分野のグループと専門分野を越えたディスカッションをする時間を意図的に設定しても良い

参加者へのアンケート結果の自由記述に見られるとおり、今年度もプログラム、会場、運営について概ね好評であり、普段あまり経験することのない他大学・他学部の教員との交流も良い評価を得ている。

各大学・学部・学科でFDを企画・実施する立場の参加者に対して、所期の目的を達成することができたと思われる。このプログラムのワークの中で、FDプログラムを作成することがFDファシリテーターとしての自覚につながり、FD担当者にとって有意義なワークになったと考えられる。来年度からの研修プログラムについてはアンケート結果を取り入れて可能な限り手直ししなければならない。

今年度の研修最後に発表された各大学の部局FDプログラムを見ると、学部における初任者研修等、適切な内容と構成をもったものが多く、部局FDを実施できる人材が確実に育って来ていることが分かる。次年度以降も、このプログラムの効果を検証しつつ、FDファシリテーター養成の場をより実質的なものにして行かなければならないだろう。

3. 教育力開発基礎プログラム

a. ねらい

実質的なFDの取り組みを進めるため、徳島大学の教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修である「教育力開発基礎プログラム」を実施した。本研修は、2007年度まで実施していた「FD基礎プログラム」をリニューアルして実施したものである。本節では、その研修内容について報告する。

本研修の目標は以下のとおりである。

- ①FD活動の理念、活動計画を理解する
- ②授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する
- ③授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする
- ④FD参加者同士の仲間づくりができる

b. 概要

■開催期日

2010年8月20日(金)～8月21日(土)

■会場

大学開放実践センター 2階 (共通教育 6号館 201)

■対象者

今年度の対象者は、学外より講師または准教授採用後2年以内の教員、学内で助教から講師または准教授昇任後2年以内の教員 (ただし所属が学部以外のセンター等、病院の場合、及びプロジェクト採用などの場合は除いた) である。他大学等での研修修了者については、研修内容等がわかる資料を提出の上、個別に対応することとした。その他に、学部から推薦を受けた者 (助教及び教授等)、及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD) 加盟校教員を対象とした。今年度の参加予定者は、学内教員 31名、学外教員 2名であったが、業務の都合などにより実際に参加した教員は、学内教員 29名、学外教員 2名であった。

■参加者

【学内教員】

氏名	所属	職名
宇野剛史	総合科学部	准教授
中村光裕	総合科学部	講師
鍋島克輔	総合科学部	准教授
原 幸一	総合科学部	准教授
福森崇貴	総合科学部	講師
行實鉄平	総合科学部	講師
大宮俊恵	総合科学部	准教授
田中智行	総合科学部	准教授
清水真人	総合科学部	講師
堤 保夫	医学部	講師
廣原紀恵	医学部	講師
藤井智恵子	医学部	講師
阪間 稔	医学部	准教授
永井宏和	歯学部	准教授
中道敦子	歯学部	講師
山崎尚志	薬学部	准教授
田村隆雄	工学部	准教授
河口洋一	工学部	准教授
水谷康弘	工学部	講師
重光 亨	工学部	講師
西内優騎	工学部	講師
中川敬三	工学部	講師
玉井伸岳	工学部	講師
宋 天	工学部	准教授
加藤 真希	工学部	講師
奥嶋政嗣	工学部	准教授
佐藤克也	工学部	講師
水野義紀	工学部	准教授
橋本 智	国際センター	准教授

【学外教員 (T-SPOD)】

氏名	所属	職名
中島 一	阿南工業高等専門学校	助教
櫛田直人	徳島工業短期大学	助教

■運営メンバー

副学長 (教育担当)、大学開放実践センター長 (FD 専門委員会委員長)、FD 専門委員を含め、教員 12名、FD マネージャー 1名、事務補佐員 1名の計 14名で運営した。

氏名	所属	職名
和田 眞		副学長
日置善郎	大学開放実践センター	センター長
前澤 博	医学部	教授
岸江信介	総合科学部	教授
田中秀治	薬学部	教授
末包哲也	工学部	教授
奥田紀久子	医学部	准教授
金西計英	大学開放実践センター	教授
川野卓二	大学開放実践センター	教授
宮田政徳	大学開放実践センター	准教授
田中さやか	大学開放実践センター	特任助教
吉田 博	大学開放実践センター	特任助教
奈良理恵	大学開放実践センター	FD マネージャー
森川知香	学務部教育支援課	事務補佐員

■内容

2日間にわたり、表2のプログラムを実施した。

■全体の流れ

【1日目】

「(1) オリエンテーション」では、和田副学長より「大学教育、FD・SDへの期待」について、日置FD 専門委員会委員長より「研修のねらいと意義」についてお話を頂いた。

「(2) アイスブレイク」では、参加者間の交流と自己紹介のため、事前に作成を依頼していた「大学教員川柳」と「私の座右の銘」の披露を行った。作品は会場に掲示し、参加者やスタッフなどの関係者による投票で優秀賞を決めた。受賞式は研修の最後に行った。

表2 2010年度教育力開発基礎プログラム

第1日(2010年8月20日・金曜日)

時刻	内 容	講師・担当者
9:00-9:30	・受付 (6号館201)	
9:30-10:00	(1) オリエンテーション ・大学教育、FD、SDへの期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	川野卓二(進行) 副学長(教育担当) 和田 眞 FD専門委員会委員長 日置善郎
10:00-10:30	(2) アイスブレイク 参加者自己紹介・交流	田中さやか
10:30-11:50	(3) 講義・WS ①講義「求められる学士力と教員像について」 ②WS「World Café-あなたが育てたい学生像」	宮田政徳 吉田博 田中さやか
11:50-12:50	休憩 各自で昼食	
12:50-14:00	(4) WS「よい授業・悪い授業」 KJ法を用いて、よい授業の特長をまとめる	吉田博
14:00-15:35	(5) 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 ・授業設計と評価 ・参加型授業 ・シラバス、授業計画書の検討・修正	司会：宮田政徳 川野卓二
15:35-15:50	休憩	
15:50-17:30	(6) グループワーク「模擬授業の計画と準備」 ・模擬授業実施代表者選出 ①各班で全員の授業発表 ②発表後、よかった点、改善点について相互評価 ③模擬授業実施者の選出と役割分担決定	ワーク支援： スタッフ全員

第2日(2010年8月21日・土曜日)

時刻	内 容	講師・担当者
9:30-10:00	・集合、模擬授業準備 (教材印刷が必要な場合は9:00集合)	スタッフ
10:00-12:00	(7) 模擬授業実施(前半)(グループ代表が発表) A班(10:00-10:30), B班(10:30-11:00) C班(11:00-11:30), D班(11:30-12:00)	司会：宮田政徳
12:00-13:00	休憩 昼食(各自で)	
13:00-15:00	模擬授業実施(後半)(グループ代表が発表) E班(13:00-13:30), F班(13:30-14:00) G班(14:00-14:30), H班(14:30-15:00)	スタッフ全員がアドバイザーとして参加
15:00-15:10	休憩	
15:10-16:10	(8) プログラムのまとめ ・模擬授業のまとめ ・授業コンサルテーションについて ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	宮田政徳(進行) 川野卓二 副学長(教育担当) 和田 眞 FD専門委員会委員長 日置善郎

「(3)①講義 求められる学士力と教員像について」では、「学び」に関する理論、今求められている学士力を説明し、これから求められる教員像について講義を行った。

「(3)②ワークショップ World Café—あなたが育てたい学生像」では、World Caféという手法を用いて、大学教員として育てたい学生像について対話を行った。各ラウンドのテーマは、ラウンド1「どのような学生を育てたいと考えていますか?」、ラウンド2「ラウンド1で挙げた、学生を育てるためには、どのようなことができますか?」、ラウンド3「大学教員として、学生と関わっていく上で、これからどのようなことを心がけていきますか?」である。3つのラウンドが終了すると、参加者は対話を振り返り、以下の3つの項目について書き出し、会場に掲示した。

- ①これまで教育に関して取り組んできたこと、心掛けてきたことの中で、今後も続けていこうと思うこと (Continue)
- ②これまでの教育活動を振り返り、取り組んできたこと、心掛けてきたことの中で、やめようと思うこと (Stop)
- ③これから自身が教育に従事するなかで、取り組んでいきたいこと、心掛けていきたいこと (Start)

「(4)ワークショップ 良い授業・悪い授業」では、学生の授業評価コメントを参考にしながら、良い授業と悪い授業について考え、グループごとにKJ法を用いて、キーワードを模造紙に整理してまとめ、グループ間で成果を報告しあい情報共有を行った。グループで作成した模造紙は会場に掲示し、参加者は自身の授業について、①良いところ、②改善すべきところ、③自身の授業でこれから取り組んでいきたいところを書き、これも会場に掲示した。

「(5)講義 よりよい授業実施のために」では、Significant Learning (意義ある学習)を目指す授業設計について講義を行い、その中で評価の仕方、参加型授業について説明があった。次にシラバスの書き方と授業計画作成のポイントについて説明があり、参加者が事前に作成してきた、シラバス、授業計画書について、チェック項目リストをもと

にして修正を行った。

「(6)グループワーク 模擬授業の計画と準備」では、各グループに分かれて、模擬授業を実施した。部屋は、第1講義室、第2講義室、会議室、コンピューター教室、ファカルティ、ゼミ室、ネットワーク教室、インテリジェントラボの8部屋を利用した(いずれも大学開放実践センター内)。各部屋には、センター教員、またはFD専門委員の教員が入り、模擬授業の進行を行った。模擬授業の内容は、各自の専門の入門科目を想定して行われ、実施者以外は学生の立場で授業を受けるとともに、チェック項目リストをもとにして、良かった点、もっと良くするための改善点を書き出し、実施者に対しフィードバックを行った。グループ内での模擬授業の発表が終わると、2日目に実施する模擬授業で、授業を発表するグループの代表者を選抜した。その他に、司会、コメンテーター、タイムキーパーの役割を決めた。

[2日目]

「(7)模擬授業実施」では、グループごとに司会が進行しながら、各グループの発表が行われた。初めに5分間で模擬授業実施者、授業内容、代表者に選抜された理由を紹介した。続いて、15分間の代表者による模擬授業、5分間で他のグループのコメンテーターによるコメント、及び他の参加者との質疑応答が行われた。時間管理は、各グループのタイムキーパーが行い、グループの交代を含め1グループにつき30分をとって進めた。模擬授業内容は、1日目の模擬授業の良いところや改善点を踏まえ、修正を加えたものである。発表グループ以外の参加者は、学生の立場で授業を受けつつ、良かった点、もっと良くするための改善点を書き出し、模擬授業実施者に対しフィードバックを行った。

「(8)プログラムのまとめ」では、プログラムのまとめが行われ、徳島大学の全学FD活動に関する説明と、参加者の実践的な授業改善に役立つ活動として、授業コンサルテーションの紹介・申込受付が行われた。最後に教育担当副学長より、修了証の授与、おわりの言葉を頂き、プログラムの全日程を終えた。

c. 成果と課題

■プログラムの到達目標に対する達成度

[到達目標①:FD活動の理念、活動計画を理解する]

全学FD活動に関する理念、活動計画に関するプログラムは、(1)オリエンテーションでの和田副学長による「徳島大学の教育とFD、SDへの期待」と、(8)プログラムのまとめ「授業コンサルテーションについて」である。これらのプログラムにより、参加教員は徳島大学の全学FD活動について概ね理解できたのではないだろうか。また、後期に実施する授業コンサルテーションに対する理解も頂けたのではないだろうか。実際に18名の参加者が、後期の授業において授業コンサルテーションを実施した。

[到達目標②:授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する]

授業計画、実施、評価に関するプログラムは、「(5)講義 よりよい授業実施のために」の中で、Significant Learning (意義ある学習)の理論をもとにして、ワークシートを用いた実習を行った。参加者は自身の授業を想定して、学習目標、評価活動、学習活動をまとめることで、日常の教育活動により近く、講義内容を体得しやすかったのではないだろうか。また、シラバスの書き方と授業計画書作成のポイントを説明した後、チェックリストをもとにして、自身の作成したシラバスと授業計画を振り返った。このことで、重要なポイントを押さえることができたのではないだろうか。実際、アンケートでは、約9割の参加者が作成したシラバス、授業計画書を改善する際のポイントの理解することができたと回答し、約8割の参加者が授業設計とその評価法について理解し、「意義ある学習」の視点で授業法略の改定を行うことができたと回答している。

[到達目標③:授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする]

1日目の各グループに分かれて実施した模擬授業では、授業を検討するための要点と討議のポイントをまとめた資料、模擬授業実施者選抜のためのチェック項目リストを配布した。参加者は要点のチェックと、良かった点、もっと良くするため

の改善点を書き出し、相互にコメントをフィードバックした。このことでアンケートでは、94%の参加者が、参加者同士で相互に適切なコメントをすることができたと回答している。また2日目の模擬授業では、模擬授業実施者に対して、良かった点、もっと良くするための改善点を書き出し、フィードバックするとともに、活発な質疑応答が行われた。アンケートでは、9割以上の参加者が、模擬授業を参観し、自身の授業に取り入れたい知識やスキルを、1つ以上持ち帰ることができたと回答している。自分の授業を他の教員に見てもらい、フィードバックを受けることには抵抗を感じる参加者もいると思うが、今回の研修をきっかけにして、授業研究の輪が広がることを期待する。

[到達目標④:FD参加者同士の仲間づくりができる]

アイスブレイク、World Café、グループワーク、模擬授業などでは、できるだけ多くの教員との関わりを持てるようにグループを変えて実施した。アンケートでは、グループを変えすぎであるとの指摘があったが、他の先生との交流の機会を持つことができた、教育について議論できたことが良かったなどの意見が挙げられていた。また、今年度は自由参加の形式で、懇親会を実施し、参加者と運営スタッフを含めて25名が参加した。参加教員、センタースタッフ、副学長やFD専門委員とお互いの授業、研究、徳島大学の教育に関するさまざまな情報を交換する機会となり、有意義な時間を持つことができたのではないだろうか。

■今後の課題

研修の成果について、約9割の参加者が内容を十分に理解できたと回答し、7割以上の参加者が自分に必要な知識やスキルを身につけることができたと回答している。また、研修全体については、研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した参加者は約2割程度にとどまっていたが、研修が期待を上回る内容だったと感じた参加者は7割以上であり、研修全体を通して概ね満足できる内容であったようである。しかし、今後改善すべき課題がいくつか明らかとなった。

今回は、授業を担当している教員を対象とする

ために、学内の対象者は、講師または准教授採用後2年以内の教員、学内で助教から講師または准教授昇任後2年以内の教員とした。このことで、教育歴が10年になる参加者がいて、教育経験に差があった。教育経験に差があることによるメリットもあるが、教育力開発基礎プログラムを受講することにふさわしいかどうかを踏まえ、対象者について、検討する必要はあるのではなかろうか。

事前準備として、シラバス、授業計画書、教材の作成を依頼した。前年度の課題を踏まえ、周知すべき内容や方法などは十分に検討されており、参加者全員が準備できていた。しかし、1日目で全員が模擬授業を実施することなどの、詳細な内容が十分に伝わっていない参加者もいた。参加者への事前準備と同様に、内容に関してどの程度まで周知しておく必要があるかについても、プログラムの打ち合わせの時に検討したい。

また、アンケートが多いという指摘が多く参加者から挙げられていた。研修では、参加者及び徳島大学のニーズに合った研修を実施していくために、研修内容を改善する目的で、アンケートを実施している。しかし同時に、研修の意義や参加者の変化を研究するためにアンケートを実施し、データを収集する場合がある。この場合は、特に参加者の視点に立って、記入することの負担などを考慮し、アンケートの目的やデータの活用の仕方などを十分に説明し、参加者の納得を得たうえで、慎重に実施する必要がある。

今回初めて、研修プログラムとは別に自由参加で懇親会を企画したが、参加者同士、またはスタッフと参加者間の交流、研修中にはできないより深い内容の情報交換を行うことができた。アンケートからも、参加者の交流の場として懇親会を行うべきだと思うと回答した参加者が7割を超えていることから、今後も継続して実施していきたい。

今年度は、対象者を変更した点や事前準備の段階でシラバス、授業計画書、教材等の作成を依頼していた点、懇親会を開催するなどの変更点があった。研修を効果的に実施するためには、参加対象者のニーズや学生の状況などを踏まえ、継続して改善を加えていくことが重要である。

d. 初任者研修アンケート結果

最後に、プログラム終了直後に実施したアンケート結果について、自由記述の回答を示す。

(1) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ 学生とのコミュニケーション
- ・ パワーポイントを使いこなせる能力
- ・ 学生との対話力
- ・ プレゼン能力
- ・ 充実したシラバスの作成
- ・ 全15回の講義を組み立てるスキル、各回の流れのつながり
- ・ 知識や現在の自動車業界の情報
- ・ 専門知識の更なる高度化
- ・ 専門分野の幅広い知識
- ・ 学生との距離
- ・ 日本語
- ・ 学生の興味をひく内容をうまく提供する
- ・ メリハリのきいた話し方
- ・ 学生とのコミュニケーションスキル
- ・ PPTの作成と使用
- ・ 他人に自分の考えを伝えるプレゼンテーションスキル
- ・ プレゼン能力
- ・ 応用知識
- ・ 授業にメリハリをつけること
- ・ 授業方法
- ・ 明確でわかり易い講義
- ・ 担当する授業を行うための知識
- ・ パワーポイント使用のスキル
- ・ 講義方法
- ・ ICTの活用
- ・ 板書
- ・ 話し方
- ・ 授業方法
- ・ 明確でわかり易い講義

(2) 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 自分の問題を再確認できた
- ・ 他の先生方と交流の機会を持つことができた点

- ・他学部の先生との交流
- ・FDというより、各々な講座の種々の学問に触れることができおもしろかった
- ・シラバスの書き方、評価基準の設定の仕方などを学べたこと
- ・他人の授業を見ることができた
- ・他大学の先生の授業を見る事が出来た事
- ・教育について議論できたこと
- ・2日目の実際の講義を拝見できたのは、貴重なことだったと感じる。今後、参考になると思う。
- ・人とのつながりを作ることができた
- ・たくさんの先生と会って良かった
- ・自分の授業の改善点がよくわかった
- ・講義の問題点を把握できた
- ・他の先生方の熱意を感じる事ができた
- ・他の大学の先生の全く初めての分野に出会い、非常に参考になり、楽しかった
- ・人材交流と何とか論の多様性の取得
- ・他の先生方の講義に細かい留意点が多くあり参考になりました
- ・人的なつながり
- ・他の先生方の講義を聞く機会があった
- ・他の学部の先生方の講義が新鮮であり、また今後の参考になった
- ・自分の講義に活用できるポイントが多数あった

(3) 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・アンケートはなくして下さい。あるいは、10問程度でお願いします。
- ・新任の先生以外の先生でも、技を改善すべき先生はいると思うので、その先生方も研修に参加させるべき
- ・新任の先生のために行うのであれば、4月～5月に行うのが良いのでは
- ・FD講師・スタッフも模擬授業をして手本を見せてほしい
- ・他の学部の先生方の講義が新鮮であり、また今後の参考になった
- ・自分の講義に活用できるポイントが多数あった

- ・KJ法のWSの時、明らかに時間不足だった
- ・忙しかった
- ・1日で修了出来る様、もう少しタイトにしてほしかった
- ・時間的余裕を持たせるべきだと思います。最も重要視すべき点は何なのか明確にして、適切に時間配分を行ってほしいと思います。
- ・アンケートが多すぎる
- ・もっと短縮できたと思う
- ・昇格した時点が適格な時期だとは思わない(まだ授業の形が出来ていない)
- ・希望する時期は個人それぞれ異なると思う
- ・強制ではなく希望者を募るべきです。
- ・土、日はやめてほしい。家族との時間が・・・。
- ・時間の配分
- ・それぞれのプログラム内容のつながりをもう少し明確にしてはどうでしょうか
- ・思いつきません
- ・短くすべき
- ・模擬授業中心で、1日で行ってもよいと思う
- ・1日の時間が長すぎる
- ・アンケートが多すぎるように感じました
- ・初任者とは云え、大学研究機関で経験を積まれた方とそうでない方にさらに分けて開催していただけると有難い。そもそものレベルに違いがある。
- ・事前にすべきことの説明が不十分だったように思います(初日に全員模擬授業を行うことなど)
- ・初日にグループを変えすぎだと思う。朝集合したグループで全て活動するなどした方が良いかも。
- ・教育歴別の研修をすべきである。例えば、教育歴1年目、5年目、10年目・・・
- ・各キャリアに応じて研修内容があると思います。企業からいらっしゃった教授は、教育歴0年です・・・
- ・少し時間が長いように感じました。2日間は少ししんどいです。
- ・長時間なので、集中力が切れることがある。休憩を入れるなど時間的に余裕をとってほしい。
- ・勉強になりました。ありがとうございました

4. 授業コンサルテーション

a. 授業コンサルテーションの目的

徳島大学では、全学FD推進プログラムの一環として、2005年度より「授業コンサルテーション」を実施しており、2009年度においても引き続き行った。授業コンサルテーションでは、個々の教員の実情に沿った具体的で日常的なFDをめざしている。2009年度の授業コンサルテーションは、二日間に渡って実施した「教育力開発基礎プログラム」(8月10~11日に実施)の受講者を主な対象にした企画である。

b. 授業コンサルテーションの流れ

現在のところ、昨年度と同様に次のような流れで進めている。

教育力開発基礎プログラム(FD基礎プログラム)参加者の授業への参観・VTR撮影・学生アンケート

↓

授業記録作成・学生アンケート整理

↓

授業研究会(発表・VTR視聴・議論)

↓

目的: 授業の把握、授業の改善、参加者間での授業技術の共有化

まず、センター教員と撮影担当者が、各教員の授業を参観し、簡単なメモ(授業まとめ、時間経過、特筆すべき発言や出来事)をとりつつ、授業をVTRに収める。授業終了時には、学生へのアンケート(その日の授業で何を学んだかということと、授業に関する先生へのメッセージについて)を実施する。さらに時間があれば、教員に授業に関する簡単なインタビューを行う。

その後、VTRをもとに、センター教員が詳細な授業記録を作成し、それと平行して授業の主要部分の映像を編集し、DVDを作成する。授業記録は、時系列に沿って授業の展開過程(まとめ、何が話されているか、学生との相互作用、板書など)がわかるように作成した。DVDは授業の展開が分かるように、各まとめから数分間の映像を抽出し、合計で20分強になるようまとめた。さ

らに、授業より数週間後、授業記録やDVD、学生アンケート結果をもとにした「授業研究会」を開催する。そこでは、様々な部局からの参加者を交えて、授業改善の知恵を出し合ったり、また授業からいろいろなことを学び合うことを目指した。

c. 授業研究会

授業研究会は以下のような手順で進めた。所要時間は全部で1時間20分ほどである。これも昨年度と同様の手順である。

簡単な説明(授業全体のねらい/この日のねらいなど: 対象者の先生より5分)

↓

授業DVD視聴

↓

授業参観者報告・学生アンケートから読めること(大学開放実践センター教員より5~10分)

↓

授業者解説(当日の様子/授業でうまくいっている点・お困りの点など各論: 対象者の教員より5~10分)

↓

自由討論(あるいは課題討論10~15分)

今年度の授業コンサルテーション・授業研究会は8月の徳島大学全学FDプログラムである「教育力開発基礎プログラム」に参加した新任教員(今年度は講師、准教授のみ)のうち、授業をもたない教員などを除いて、18名の教員に対して行った。今年度は最大の実施教となった。

また、2009年12月より学部FD委員会との共催で、対象教員と同じ部局に所属する教員が常時授業研究会へ参加することとなった。以前より専門分野の教員へも広報していたため、研究会への参加者はあったが、同領域の教員が常に参加する状態ではなかった。学部FD委員との共催とすることで、専門的な立場からの教員が常時参加し、専門的な視点から議論する体制が整った。

授業研究会では大学開放実践センター教員のほか、対象教員が所属する部局等からの参加がみられた。なお、授業研究会は、授業研究インテリジェントラボあるいは蔵本キャンパスの講義室で行

った。2010年度の授業研究会は以下のとおりである。

●第1回 2010年11月16日(火) 16:30~17:50

- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
- ・授業担当者：鍋島克輔准教授（徳島大学大学院 ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部）
- ・授業題目：『基礎数学／微積分学Ⅱ』
- ・共催：総合科学部FD委員会
- ・概要：授業研究会では、教える内容の多い数学の内容をどのように短い授業時間内に効果的に学生に理解してもらったら良いかが議論された。出された意見は、計算式等の板書が多い中、重要なポイントがどこであるかを明確にして、重要な所は学生にしっかり板書を写してもらい、それ以外はプリント等を配布して時間を節約してはどうかというような提案がなされた。

●第2回 2010年12月2日(木) 15:00~16:20

- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
- ・授業担当者：重光亨講師（徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部）
- ・授業題目：『流体機械』
- ・共催：工学部FD委員会
- ・概要：この授業では、スライド資料の重要な部分を学生が書き込むようにしている点や、毎回レポートの課題を出したりして、学生に考えさせるための工夫がしてあった。授業研究会では、学生の思考を促進し、本質的な理解を促すための工夫や、予習・復習を促進させるためにはどうすればよいかについて議論がなされた。学生の理解を深めるための一つの方法として、間違っただけの解答を示し、学生同士でどこが間違っているかを話し合う方法や、具体的な事例を示す時に、何故そうなるのかという本質的な部分を取り上げて解説することが重要ではないかという提案がなされた。

●第3回 2010年12月3日(金) 16:30~17:50

- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
- ・授業担当者：宇野剛史准教授（徳島大学大学院 ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部）
- ・授業題目：『微分積分学Ⅱ』
- ・共催：総合科学部FD委員会

- ・概要：この授業は、学生の理解度が高く、とても分かり易い授業という評判があり、実際の授業では、PPTスライドを使って分かり易く数式を教える工夫があり、また学生が授業中に演習問題を解く際に、個別に学生を1人1人回って指導されていた。授業研究会では、数式を理解し易いスライドの作り方・使い方についてや、学生の頭に残る授業法などが話題に上がった。また学生相互にやりとりをしながら演習問題を解き、答え合わせをさせてはどうかという提案もなされた。

●第4回 2010年12月9日(木) 15:00~16:20

- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
- ・授業担当者：水野義紀准教授（徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部）
- ・授業題目：『微分方程式Ⅱ』
- ・共催：工学部FD委員会
- ・概要：この授業は、数式を板書しながら丁寧に解説していくもので、基本的な事柄に合わせて、発展的な事柄も織り交ぜて進められていた。学生の理解を促すための練習問題も課題として準備されていた。基本的なところを丁寧に解説しようとするとう授業時間が不足して、本来なら大学の授業で消化すべき内容を十分伝えることが難しいことや、教員の数を増やし、きめ細かなサポートができる体制にして欲しいといった意見が議論された。

●第5回 2010年12月14日(火) 16:30~17:50

- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
- ・授業担当者：カルンガル・ステファン・ギディンシ講師（徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部）
- ・授業題目：『画像処理工学』
- ・共催：工学部FD委員会
- ・概要：この授業は、画像処理の仕方をパワーポイントで講義したものであった。授業研究会では、どうしたら見やすいスライドが作れるか、またなるべく授業前にu-ラーニングセンターのサーバーに資料をアップロードして学生に予習を促した方がよいことが指摘された。そして出来るだけ学生の理解を助けるために、授業時

に簡略化した資料を配付することも重要であるという意見が出された。また講義の中でもなるべく学生に質問したりして、何故そうなるのかを考えさせる時間を作ることが大切ではないかということが議論された。

●第6回 2010年12月17日(金) 15:00~16:20

- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
- ・授業担当者：西内優騎講師（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部）
- ・授業題目：『物質合成化学Ⅰ及び演習』
- ・共催：工学部FD委員会
- ・概要：この授業は、工学部化学応用工学科の学生が1~3年まで習った有機化学の内容を、弁理試験の化学の問題を解きながら復習するものである。授業中問題をパワーポイントで示しながら、解答を学生に当てて答えさせる形で行われている。授業で困っている点は学力や学習意欲の差で、答えられる学生と答えられないがいることである。その対応策として、特定の学生に答えさせる前に、学生同士2, 3人で相談させて代表者に答えさせたらどうか、というような示唆が提案された。

●第7回 2010年12月20日(月) 13:00~14:20

- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
- ・授業担当者：宋天准教授（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部）
- ・授業題目：『マイクロコンピュータ回路』
- ・共催：工学部FD委員会
- ・概要：この授業は、思考のプロセスを見せることや、学生の理解に合わせて進められ、また板書の良さを活かした丁寧な授業である。さらに授業の復習課題として、練習問題を独自に作成し、学生の理解の促進と確認がなされている。授業研究会では、学生の理解を確認するため、授業の各ステップで学生に問題を解いてもらい、理解度を把握する方法や、板書と合わせて、学生の思考を促すような作業をしてもらうための資料を配付することや、授業の前後に学生とコミュニケーションをとることで、クラスの雰囲気の良い方に変化すること等が指摘された。

●第8回 2010年12月22日(水) 10:40~12:00

- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
- ・授業担当者：田中智行准教授（徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）
- ・授業題目：『中国語初級』
- ・共催：総合科学部FD委員会
- ・概要：この授業は、医療系の学生のための共通教育科目の初級中国語である。授業では、学生に発音練習をさせながら、個別に発音指導をして行き、練習問題を学生に解答させる形式で行われている。授業研究会では、ペアを組んで会話練習をさせ、学生の代表ペアに会話のやりとりを発表してもらい、それをICレコーダーに録音してその場で再生することによって、全員で発音のチェックができるのではないかと指摘がなされた。また板書の一部をPPTスライドで提示すると、黒板ではなく学生の方を向く余裕ができるのではないかと、という提案があった。

●第9回 2010年12月24日(金) 10:30~11:50

- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
- ・授業担当者：中村光裕講師（徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）
- ・授業題目：『天然物質化学』
- ・共催：総合科学部FD委員会
- ・概要：この授業は、総合科学部理数学科3年生を対象とした選択科目であり、天然物質化合物の構成について、主に板書中心にして解説されている。授業研究会では、学生に考えさせる部分と、筆記して覚えてほしい部分を分けて資料を作成してはどうか、という意見が出た。また、どの部分が重要であるのかといった、メリハリをつけた解説が大事で、さらに中間期に小テストを実施して、学生の理解度をチェックし、その後の授業において理解できていない点を重点的に解説するなどの対応をしてはどうか、という議論がなされた。

●第10回 2011年1月12日(水) 14:30~15:50

- ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
- ・授業担当者：奥嶋政嗣准教授（徳島大学大学院ソシテクノサイエンス研究部）
- ・授業題目：『計画プロジェクト評価』

- ・共催：工学部FD委員会
- ・概要：この授業は、初めに先週の復習問題、その後先週のクイズの答え合わせをして、講義が始まり、最後の演習で個別指導しながらクイズを解かせる、といった流れで講義内容に沿った問題を解く時間が設定されており、学生の理解の促進と知識の定着をさせる工夫が施されている。授業研究会では、穴埋め式のスライド資料の提示の際、授業の進度が速くなりがちなので書き取りの時間を考慮して話す必要性が指摘された。また講義の部分で、学生との交流を持たせるために、昨年の学生が躓いたところを手がかりにして問いかけをしたらどうか、という提案がなされた。さらに学生の集中力を途切れさせないためには、具体的なエピソードなどの脱線話をはさんだら効果的であることなどが議論された。
- 第11回 2011年1月13日(木) 10:30~11:50
 - ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：水谷康弘講師(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)
 - ・授業題目：『機械数理演習2』
 - ・共催：工学部FD委員会
 - ・概要：この授業は、米国ハーバード大学のサンデル教授の白熱授業を目指し、学生とのインタラク션을重視し、学生への問いかけを取り入れ、授業内容の問題を学生に解かせ、個別に指導していくという演習を組み合わせたものである。授業研究会では、話しながら教室を回って学生に問いかけていくには、板書よりもスライドの方が適していることが指摘された。また、学生が躓きやすい点を問いかけて議論しながら、授業を進めていくことで、学生に思考の機会を与えている点が重要であることが確認された。さらに、演習問題を利用して、グループ学習を取り入れ学生同士のインタラク션을促したら、もっと学生の思考を深めることが出来ることが議論された。
- 第12回 2011年2月3日(木) 13:00~14:20
 - ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：橋本智准教授(国際センター)
 - ・授業題目：『日本事情II』
 - ・概要：この授業では、教員と学生の間や学生間で意見のやりとりが多く見られ、双方向的な交流を目指している。なかでもユニークな点は、留学生の日本語学習のために、学生の会話練習の成果発表を録音し、その場で再生することによって、良い点、改善した方がよい点を学生全体で共有しながらフィードバックするという工夫がなされている。授業研究会では、この授業で紹介された「ビジネス日本語」は留学生のみならず、日本人の学生にも役立つキャリア教育ではないか、また日本人の学生も参加することで、留学生との学び合いができるのではないかと、どのような意見が出された。
- 第13回 2011年2月9日(水) 14:30~15:50
 - ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：福森崇貴准教授(徳島大学大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部)
 - ・授業題目：『心理学概論』
 - ・共催：総合科学部FD委員会
 - ・概要：この授業では、学生が心理学を幅広く理解し、偏ったイメージを抱かないように、基礎的な理論の解説と同時に、具体例を多数取り入れた工夫がなされている。授業研究会では、学生を引きつけるためには、授業前に学生とコミュニケーションをとること、教室を回りながら学生に質問すること、学生間で相談させ意見をまとめさせ発表すること、等が大事であることが指摘された。
- 第14回 2011年2月17日(木) 16:00~17:20
 - ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：大宮俊恵准教授(徳島大学大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部)
 - ・授業題目：『生徒指導論』
 - ・共催：総合科学部FD委員会
 - ・概要：この授業では、学生に多くの質問を投げかけ、ペアになった学生に話合わせ、まとめた意見を発表させ、発表された学生の意見から自分の気づきをまとめることによって、学生が自分で考えることを目指している。授業担当者が小学校で得た教員経験を活かし、授業担当者自

身の授業の進め方からも「生徒指導」のあり方が学べる授業である。授業研究会では、座席指定をする場合同じコースの学生が近くにならないような工夫、初対面の学生同士が話しやすくなるようなワーク、学生に深く考えさせる発問の仕方、TAを使つてのロールプレイ、等が議論された。

- 第15回 2011年2月18日(金) 8:30~9:50
 - ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：清水真人講師(徳島大学大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部)
 - ・授業題目：『商法Ⅱ』
 - ・共催：総合科学部FD委員会
 - ・概要：この授業では、一方向になりがちな法律の内容について、積極的に学生に質問して発言を求め、商法の難しい理論を身の回りの具体例を挙げながら解説して行く工夫が見られる。授業研究会では、補足資料も大事だが、教科書がある場合は出来るだけ使用すること、或一つの問題に対して様々な専門家の意見があることを紹介して学生にどう考えたらよいかを考えさせること、等が重要ではないかという指摘があった。また、論述式の試験問題を作成する場合、事前にどのような視点から記述すればよいか或程度学生に示しておけば、学生が重要なポイントを理解できるのではないかという議論がなされた。
- 第16回 2011年2月28日(月) 15:00~16:20
 - ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：玉井伸岳講師(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)
 - ・授業題目：『生物物理化学Ⅰ』
 - ・共催：工学部FD委員会
 - ・概要：この授業は、授業内容を分かり易くするために、教科書以外に自作のプリントを配り、反応式を丁寧に板書し、前回の復習をしながら、学生が躓きやすいポイントを押さえて行くやり方で、学生の理解を促す工夫がなされている。授業研究会では、メリハリのある授業を行うためには、学生自身が式を立てて計算して行く実践的課題を与えたり、学生の興味・関心を引く

ような話題を取り入れたり、重要なポイントでは話し方に抑揚をつけて話すことなどが必要ではないか、というような提案がなされた。

- 第17回 2011年3月1日(火) 15:00~16:20
 - ・開催場所：歯学部共通講義室(5F)
 - ・授業担当者：中道敦子講師(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)
 - ・授業題目：『口腔疾患予防学』
 - ・共催：歯学部FD委員会
 - ・概要：この授業は、歯科衛生士を目指す、口腔保健学科の学生のためのもので、内容は歯科衛生ケアプロセスについて、理論だけでなく思考過程や臨床事例を示しながら紹介するものである。授業研究会では、PPTによる提示資料について、文字の種類・大きさ・量について意見が出された。学生の記憶に残すようにするためには、所処キーワードやポイントを穴埋めにしたたり、メモ欄を入れたりして後でノートとして見直すことも出来るようにしたらどうか、という提案があった。またPPTスライドに学生に答えてもらう質問を記入し、解答欄は穴埋めとして、学生各自に自分の答えを書き込ませる工夫をしたら、学生に考えさせることが出来るのではないかという議論がなされた。
- 第18回 2011年3月8日(火) 10:00~11:20
 - ・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：原幸一准教授(徳島大学大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部)
 - ・授業題目：『心理学初歩』
 - ・共催：総合科学部FD委員会
 - ・概要：この授業は、ニュースの記事をビデオ教材として使い、心理学と社会問題を結び付けて、学生に現実問題について考えさせる工夫がされている。授業研究会では、一方的な講義ではなく、学生への問いかけや、学生同士での話し合いをさせることで、学生に思考を促すことが出来ることが指摘された。また、授業内容を記憶に残し、必ず学習の復習をさせるために、学生に一定期間経った後、「復習ノート」を提出させたらどうかといった提案がなされた。

5. FD・SDセミナー

昨年度まで、FDとくたくセミナー、およびFD・SDラウンドテーブルと呼ばれていた2つの全学FDプログラムを、今年度は1つにまとめてFD・SDセミナーと改称した。会場は、いずれも大学開放実践センター3階の授業研究インテリジェントラボを使用し、SPOD 関係教職員にも開放した。

●第1回FD・SDセミナー (参加者：20名)

【日時】2010年5月14日(金) 16:30~18:00

【テーマ】徳島大学でICTを活用した授業を始めるためには

【話題提供者】金西計英先生(徳島大学大学開放実践センター)

【内容】EDB/CMS、LMS、お知らせシステムなど、徳島大学での教育環境が情報化し、その一方で学生のほぼ全員が携帯電話やiPhoneのようなスマートフォンを持つようになり、学生の日常も情報化されている。今回のセミナーでは、徳島大学の情報インフラを授業実施の際にどのように活用すればよいかについて話題提供があった。EDB/CMS、LMS、無線LANの使い方について取り上げ、学生の主体的な学びを支援する道具(ツール)の使い方について話があった。その後、ツールの使い次第で、個人の授業をよりよくするための可能性について話し合わせ、また、これらのツールを使いこなすには、ニーズに合わせて教員同士が学びあう場やコミュニティを作るとよいことについても話し合われた。授業支援ツールとして、①EDB/CMS(コンテンツマネジメントシステム)、②LMS(ラーニングマネジメントシステム) Moodle、③SNS(さとあい)四国の大学生を応援するコミュニティサイトがの3つが取り上げられた。

●第2回FD・SDセミナー (参加者：17名)

【日時】2010年7月2日(金) 17:00~18:30

【テーマ】聴衆応答システム(クリッカー)の実践入門

【話題提供者】齊藤隆仁先生(徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)

【内容】最近にわかに注目を集めているクリッカ

ーと呼ばれる授業ツールが紹介された。セミナーでは、聴衆(学生)に選択肢をカード型の発信器で答えてもらおうと、自動的にパワーポイントに集計する聴衆応答システムについて仕組みや使い方が解説された後、参加者が実際自分のパソコンで質問ファイル作成を体験した。このシステムは授業中に理解度の確認、問題提起、アンケートなど、幅広い用途があり、授業での双方向性を実現するツールであり、セミナーでは参加者と共にこのクリッカーのさらなる有効性と利用拡大が議論された。

●第3回FD・SDセミナー (参加者：23名)

【日時】2010年11月19日(金) 16:30~18:00

【テーマ】心底からの教育—青は藍より出でて藍より青し—

【話題提供者】和田眞先生(徳島大学理事(教育担当) 副学長)

【内容】多くの課題を抱える大学の諸状況をふまえ、その解決に向けた徳島大学の教育改革のための戦略組織・方針・施策について話題提供があった。「青は藍より出でて藍より青し」と言われるように、手間をかけて学生を育てるための「心底からの教育」の大切さ、学生の「生きるための人間力」を鍛えるための大学教育の重要性についても話があり、人間力とは何か?それを育成するためにはどのような教育が必要か等について、参加者間で活発な議論がなされた。

●第4回FD・SDセミナー (参加者：13名)

【日時】2011年3月11日(金) 13:30~15:00

【テーマ】SPOD 事業について—これまでの振り返りと今後への展望—

【話題提供者】田中さやか先生、吉田博先生(徳島大学大学開放実践センター)

出川隆富教育支援課長(徳島大学学務部)

【内容】平成20年度文部科学省戦略的連携支援事業として採択された『「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)」による大学の教育力向上』(代表校:愛媛大学)の事業期間が今年の3月末で終了する。SPOD活動自体は加盟校間の協定でこれからも継続されるが、一つの区切りとしてこの3年間のSPOD事業(F

D事業・SD事業)を振り返り、成果報告と今後の展望について参加者間で議論した。

6. 大学教育カンファレンス in 徳島

【会期】2011年1月21日(金)9:15~18:30

【会場】徳島大学大学開放実践センター

【概要と成果】

第3期全学FDプログラムの第3年目に当たる今年度の教育カンファレンスは、昨年引き続き「大学教育カンファレンス in 徳島」として、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)の開催行事として実施した。去年実施した3月とは異なり、後期授業期間中の1月に開催曜日を昨年までの水曜日から今年度は金曜日に変更して大学開放実践センターを会場として開催した。今回も各学部からの発表があり、口頭発表18件、ポスター発表13件があった。その内2件(ポスター発表1件、口頭発表1件)は、阿南工業高等専門学校、および徳島文理大学からの発表であった。また、特別講演として、立命館大学教育開発推進機構の沖裕貴教授による講演が「FDの効果検証について」と題して行われた。そして、今回新しくラウンドテーブル形式による発表が4人の話題提供者(鳴門教育大学大学院学校教育研究科の幾田伸司准教授、阿南工業高等専門学校の坪井泰士校長補佐、徳島工業短期大学の山本哲彦学長、徳島大学の教育担当副学長 和田眞理事)によって「徳島県下の大学教育連携に期待するもの及び今後の連携の方向性」という統一テーマで行われた。すべての発表終了後に情報交換会を開催した。参加者は、学外からの参加者13名を含む、約120名であった。また、情報交換会への参加者は23名であった。

平成22年度 全学FD 大学教育カンファレンス in 徳島 プログラム

会期：2011年1月21日(金) 会場：徳島大学大学開放実践センター

8:45 ~ 9:10	<大学開放実践センター1階玄関前> 受付		
9:15 ~ 9:25	副学長挨拶 和田 眞 <第1講義室> 司会：日置善郎		
9:35 ~ 12:00	口頭発表A 座長：末包哲也 <第1講義室> A① 9:35~10:00 ■知的財産権を活用した自主的創造力創出教育手法の開発 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 出口祥啓	口頭発表B 座長：伊賀弘起 <第2講義室> B① 9:35~10:00 ■学部共通科目「情報処理の基礎」の授業開発と実施に関する研究 大学院ソシオ・アーツ・アント・サイエンス研究部 豊田哲也 他	口頭発表C 座長：前澤博 <6-201講義室> C① 9:35~10:00 ■地域社会人を活用した教養教育—地域に広がる知の循環型社会実現を目指して— 大学院ソシオ・アーツ・アント・サイエンス研究部 大橋眞 他
	A② 10:05~10:30 ■学生の授業満足度に関連する要因 医学部医学科授業評価調査およびKJ法を用いた検討 医学部教育支援センター 三笠洋明 他	B② 10:05~10:30 ■「教える」ということ、「学ぶ」ということ~TA学生のアンケート結果からみえるもの~ 工学部創成学習開発センター 続木章三 他	C② 10:05~10:30 ■新しい学びのコミュニティ「水曜学舎」~ポラントリースクール~ 大学院ソシオ・アーツ・アント・サイエンス研究部 大橋眞 他
	A③ 10:35~11:00 ■履修生の追跡調査による教育プログラムの改善—産学官連携教育の持続可能性をめざして— 大学院先端技術科学教育部 長期インターンシップ支援室 森本恵美 他	B③ 10:35~11:00 ■実習教育を協同学習の観点から捉え直す~日本語教育演習・日本語教育教材研究の実践から~ 国際センター Gehrtz-三隅友子	C③ 10:35~11:00 ■初年次学生を対象とした社会人基礎力を伸ばす授業提案—社会性形成科目群「自分探しと現代社会」を通して 全学共通教育センター 中恵真理子 他
	A④ 11:05~11:30 ■知能情報工学科“ソフトウェア設計及び実験”のエンタテインメント化の試行 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 光原弘幸 他	B④ 11:05~11:30 ■ACE2010 子どもたちのアートを通じた参加型国際交流の取り組み 大学院ソシオ・アーツ・アント・サイエンス研究部 Donald Sturge 他	C④ 11:05~11:30 ■徳島大学生の正課外活動における学び—「四国キャンパス元気プロジェクト」に参加して— 大学開放実践センター 吉田博
	A⑤ 11:35~12:00 ■建設工学科における「キャリアプラン演習」の試みと改善 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 滑川達	B⑤ 11:35~12:00 ■徳島文理大学のFD活動 卒業生満足度評価アンケート等を例に 徳島文理大学文学部 古田昇	C⑤ 11:35~12:00 ■学生による徳大生の正課外活動支援—真剣徳大しゃべり場の企画・開催を通して— 工学部電気電子工学科2年 浦邊研太郎 他
昼 食 休 憩			

<p>13 : 00 ~ 14 : 30</p>	<p>特別講演 司会 : 川野卓二 <第1講義室> 演題 : 「FDの効果検証について」 講師 : 沖 裕貴 先生 立命館大学教育開発推進機構教授、機構長補佐</p>		
<p>14 : 45 ~ 15 : 45</p>	<p>ポスター発表 <1階ロビー> 座長 : 香川順子</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習支援ボランティア学生と派遣校教師との連絡体制への課題～テキストマイニング分析を通して～P① 大学院ソシオ・アーツ・アント・サイエンス研究部 山本真由美 他 ● 高校物理復習テストから高大接続を考えるP② 大学院ソシオ・アーツ・アント・サイエンス研究部 齊藤隆仁 ● 「介護実習」を終えた看護学生による「人間関係論」の評価—教科間の接続の視点から教育内容を見直すために—P③ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 關戸啓子 他 ● 医療職を目指す多専攻の学生が履修する「介護実習」の学びP④ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 安原由子 他 ● 高校生の授業参加と理解度、授業評価P⑤ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 二宮恒夫 他 ● 徳島大学教育GP「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」授業アンケートから考察される教育効果P⑥ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 藪内さつき 他 ● 有機化学におけるu-Learningを利用した自己主導型学習の試みP⑦ 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 宇都義浩 ● ものづくり教育と専門技術者育成～日亜STC 初年次の取り組みと課題～P⑧ 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 菊池淳 他 ● 諸外国のFDネットワークP⑨ 大学開放実践センター 宮田政徳 ● 阿南高専におけるティーチング・ポートフォリオの実践P⑩ 阿南工業高等専門学校 松本高志 他 ● 大学院 GP「医療系クラスターによる組織的大学院教育」～医療教育開発センターによる大学院教育支援 2年目の報告～P⑪ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医療教育開発センター 長宗雅美 他 ● 徳島大学蔵本キャンパスにおける模擬患者 (SP) の活動報告～社会人ボランティア協力による医療人教育～P⑫ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医療教育開発センター 長宗雅美 他 ● 蔵本キャンパスにおける多職種連携教育(IPE)の取り組み～1年生による合同ワークショップの報告～P⑬ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医療教育開発センター 長宗雅美 他 		
<p>15 : 50 ~ 16 : 15</p>	<p>口頭発表D <第1講義室> 座長 : 奥田紀久子 D① 15 : 50～16 : 15 ■ 学生の自己評価向上支援のためのFD開発の必要性 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 二宮恒夫 他</p>	<p>口頭発表E <第2講義室> 座長 : 金西計英 E① 15 : 50～16 : 15 ■ サマースクールと海外短期留学プログラムについての分析と総括 国際連携教育開発センター Pankaj Koinkar 他</p>	<p>口頭発表F <6-201講義室> 座長 : 岸江信介 F① 15 : 50～16 : 15 ■ 新しいアンケートの試み～教員による自由作成項目 一巡後の結果～ 全学共通教育センター 井戸慶治 他</p>
<p>16 : 30 ~ 18 : 30</p>	<p>ラウンドテーブル <第1講義室> 座長 : 日置善郎 ★ 徳島県下の大学教育連携に期待するもの及び今後の連携の方向性 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授 幾田伸司 阿南工業高等専門学校 校長補佐 坪井泰士、徳島工業短期大学 学長 山本哲彦 徳島大学理事 (教育担当) 副学長 和田眞</p>		